

# 決算概要

## 業績ハイライト

おきぎんグループ親会社株主に帰属する当期純利益は71億円  
 有価証券利息配当金等は減少したが、貸出金利息、有価証券売却益の増加などで経常収益は増加（増収）  
 役務取引等利益が減少したものの、外国為替売買損益の増加などによりコア業務純益は増加（増益）

## 2019年度業績見通し

(単位：億円)	連結	単体
経常収益	495	339
経常利益	78	66
当期純利益	52	47

※当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

## 2019年度株主還元

配当方針に基づき、株主還元の合計額については、年度の当期純利益の30%を目途とします

## 業績の概要

	単位：億円		
【連結】	2018/3期	2019/3期	前期比
経常収益	528	535	6
経常利益	101	105	4
当期純利益(※)	68	71	3
※当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益			
【単体】	2018/3期	2019/3期	前期比
経常収益	384	390	5
業務粗利益	278	287	8
資金利益	274	273	0
役務取引等利益	20	19	△1
その他業務利益	△16	△6	10
経費（除く臨時処理分）	212	212	0
うち人件費	94	94	0
うち物件費	103	102	0
コア業務純益	81	82	1
一般貸倒引当金繰入額	0	0	0
業務純益	65	74	8
臨時損益	22	21	△1
うち償却債権取立益	3	2	△1
うち株式等関係損益	17	19	1
うち不良債権処理額	2	3	1
経常利益	88	95	7
特別損益	0	0	0
税引前当期純利益	88	94	6
法人税等合計	26	26	0
当期純利益	62	68	6

	単位：億円		
【単体】業績予想との比較	計画	2019/3期	計画比
経常収益	350	390	40
コア業務純益	74	82	8
業務純益	73	74	1
経常利益	74	95	21
当期純利益	51	68	17

## 損益のポイント（単体）

**経常収益** 貸出金利息、有価証券売却益の増加及びその他受入利息の増加などで対前年度比5億円増加の390億円（増収）

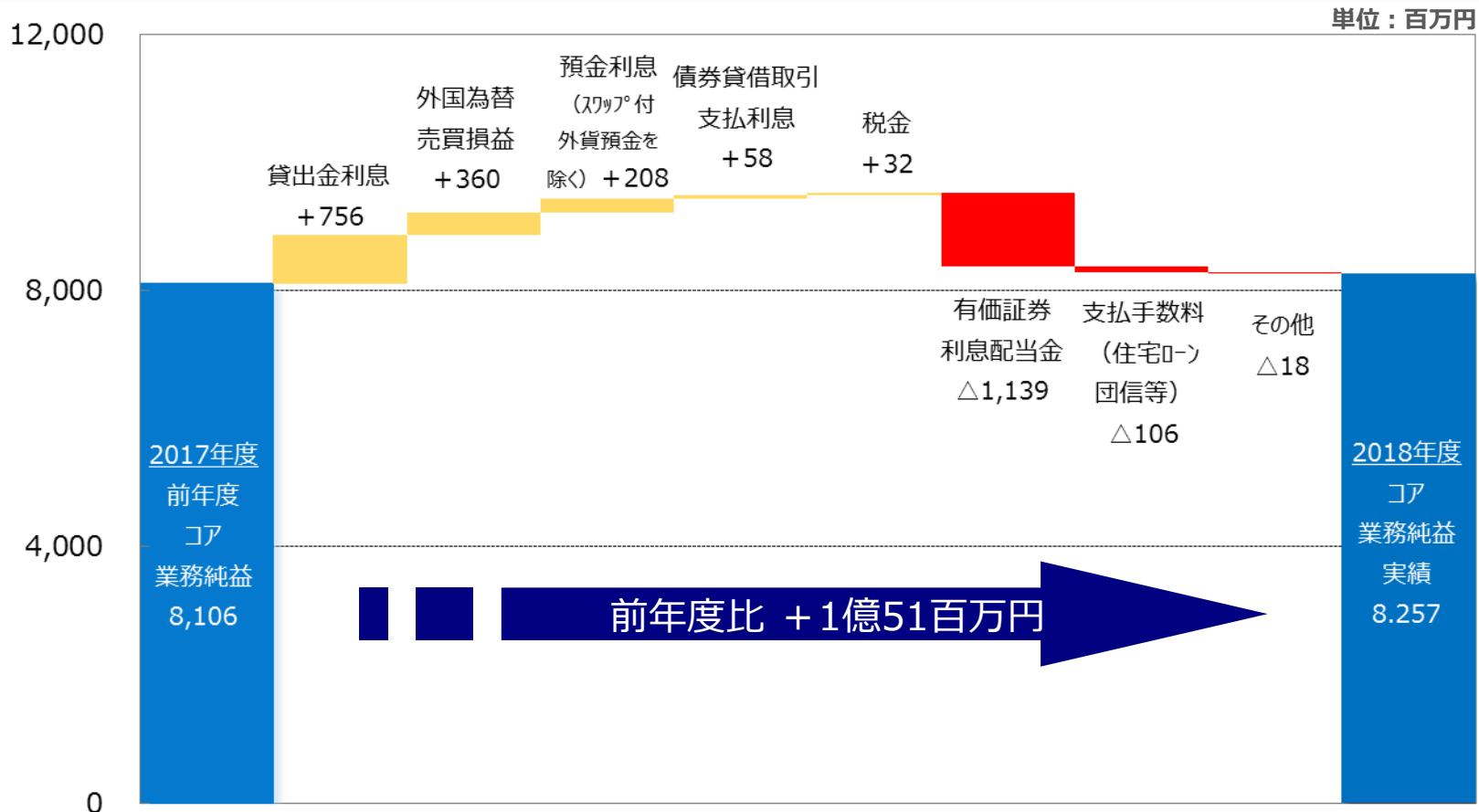
**コア純益** 役務取引等利益が減少したものの、外国為替売買損益の増加により同比1億円増加

**経常利益** 償却債権取立益の減少、与信費用の増加はあったものの、有価証券関係損益の増加により同比7億円増加の95億円

以上より増収増益となりました。

# コア業務純益の増減

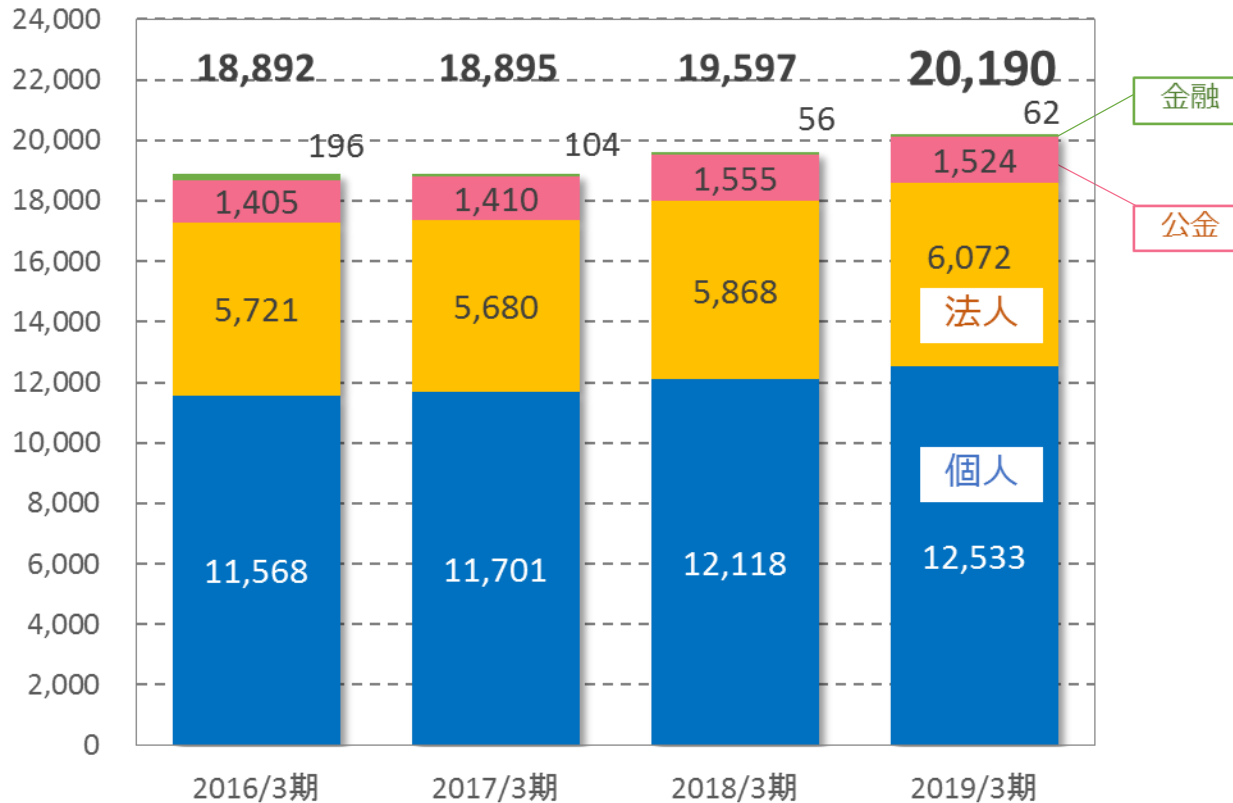
コア業務純益は、有価証券利息配当金の減少はあったものの、貸出金利息の増加などにより対前年度比+151百万円の増加



# 預金の推移（平残）

**総預金は593億円増加の20,190億円**  
**個人預金415億円増加、法人預金204億円増加**

(単位：億円)



**個人預金**

給振・年金口座の獲得の継続的な取組みにより流動性預金増加

**法人預金**

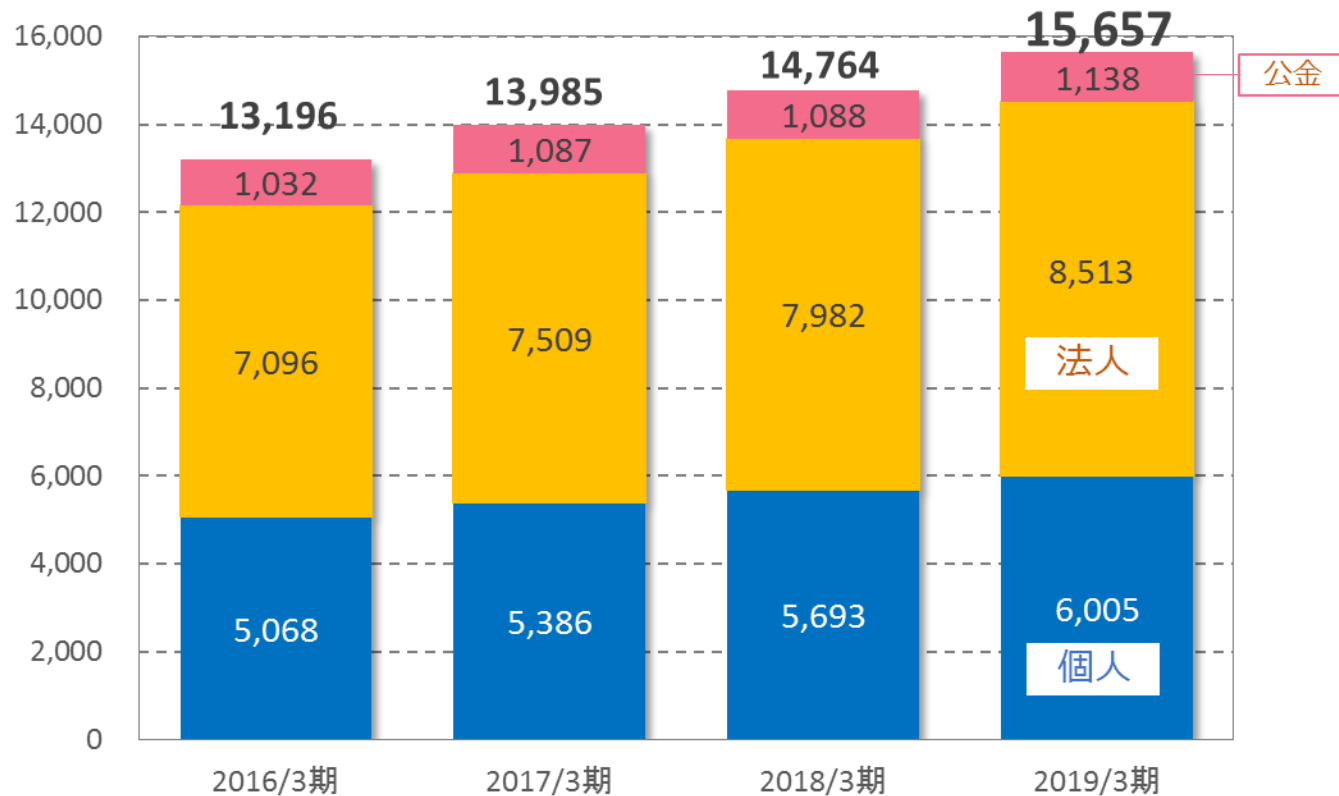
S R活動による資金トレースで流動性預金増加

※信託勘定を含んでおります。

## 貸出金の推移（平残）

法人向け531億円増加 個人向け312億円増加  
 総貸出金は893億円増加（+6.0%）の15,657億円

（単位：億円）



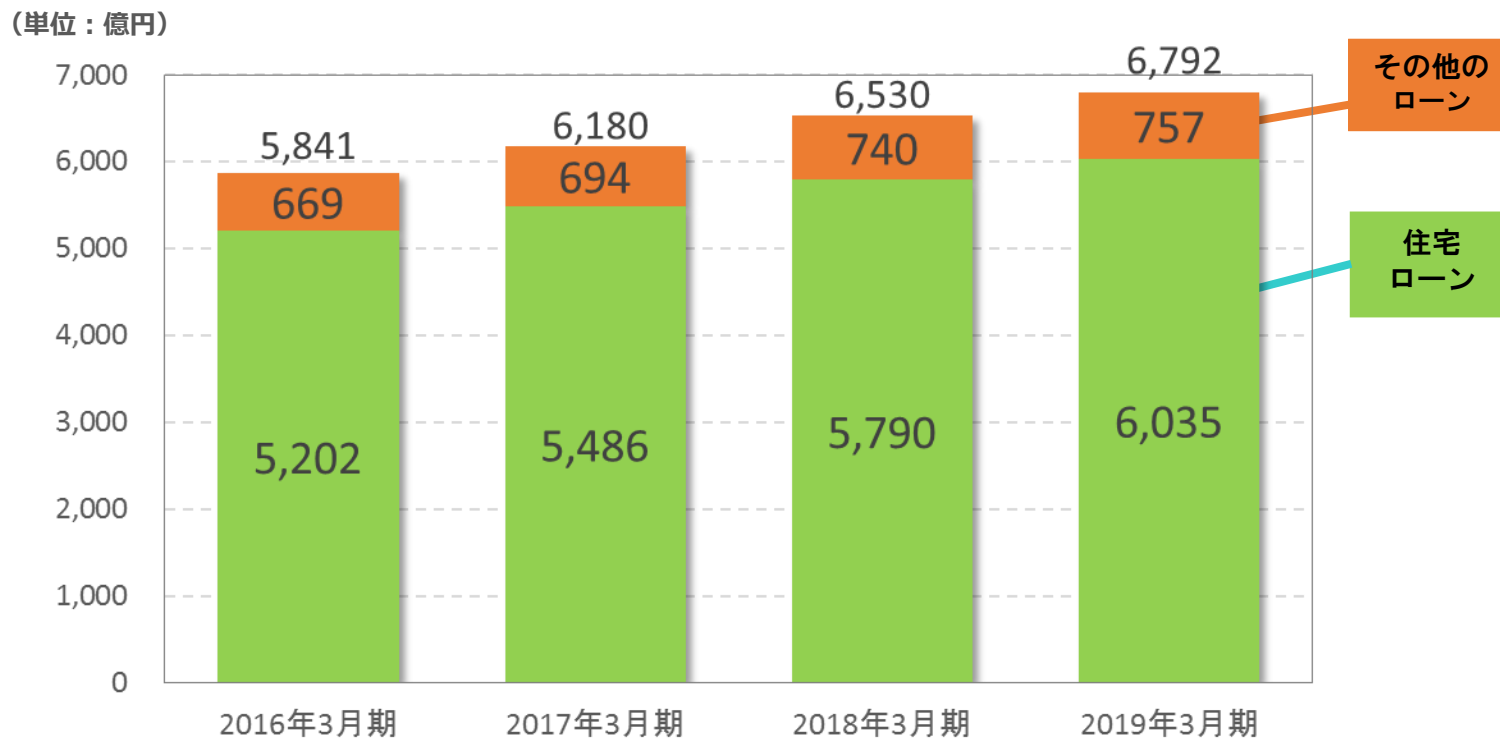
法人貸出  
 増加要因  
 不動産

個人貸出  
 増加要因  
 住宅ローン

※信託勘定を含んでおります。

## 生活密着型ローンの推移（未残）

住宅ローンは245億円増加 その他ローンは17億円増加  
生活密着型ローンは前期比262億円増加（+4.02%） 合計6,792億円



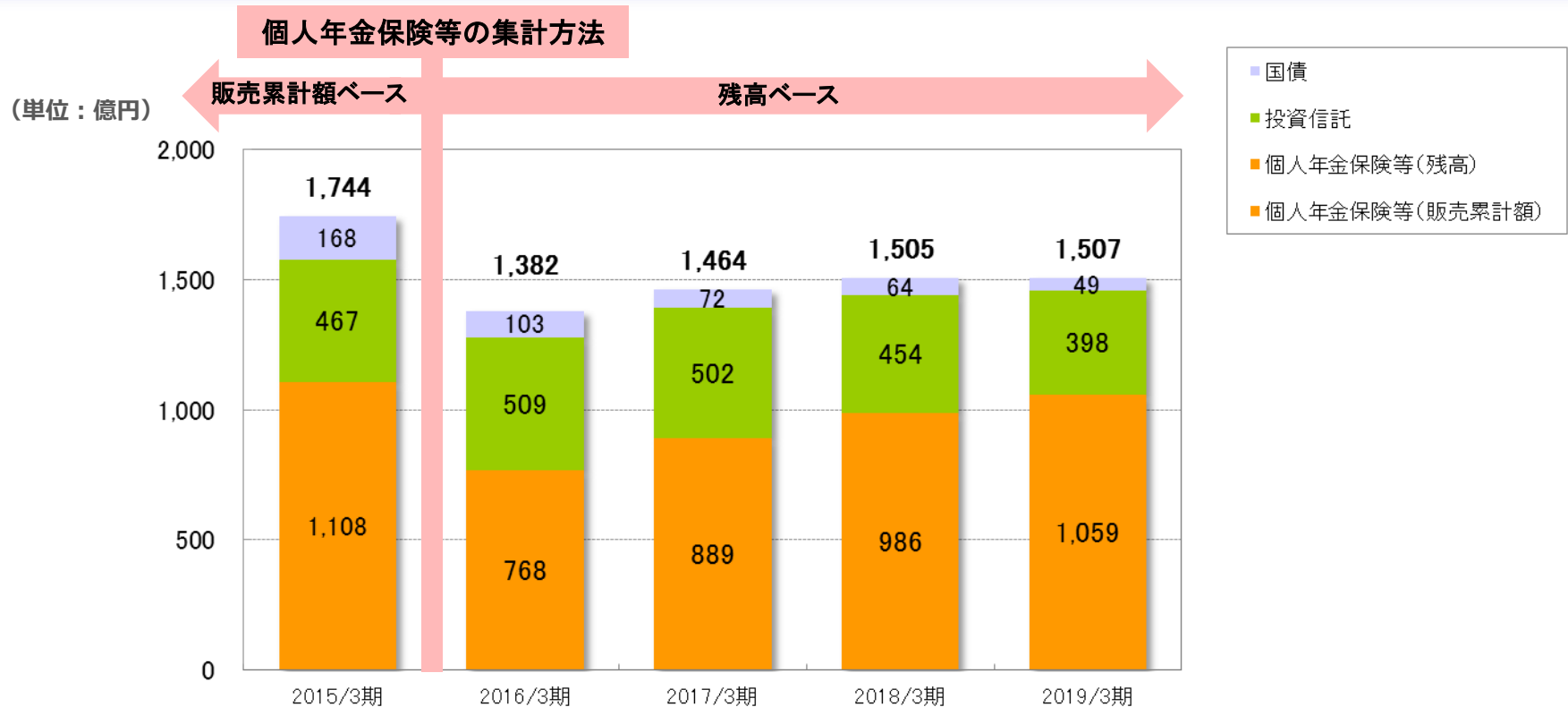
※信託勘定を含んでおります。

※生活密着型ローン：お客さまの生活に密着した資金を提供するローン。いわゆる個人ローン、消費性ローンのこと

# 預かり資産の推移

投資信託・国債の減少となるものの、個人年金保険等73億円の増加により預かり資産全体では2億円の増加

お客さまへ良質なサービス提供による資産形成へ寄与  
 (おきぎんフィデューシャリー・デューティー基本方針の実践)

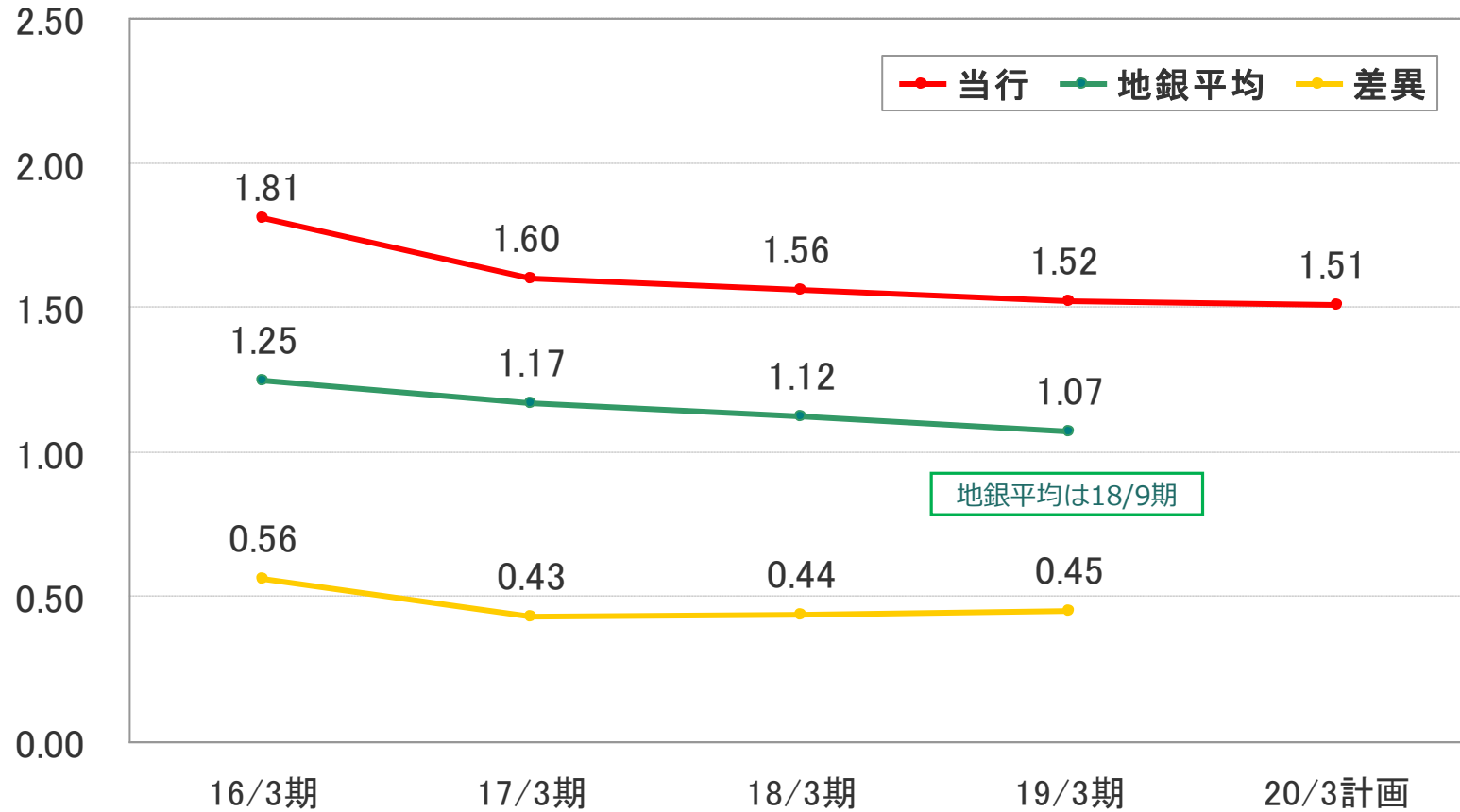


※15/3期以前は販売累計額、16/3期以降は残高で記載しています。



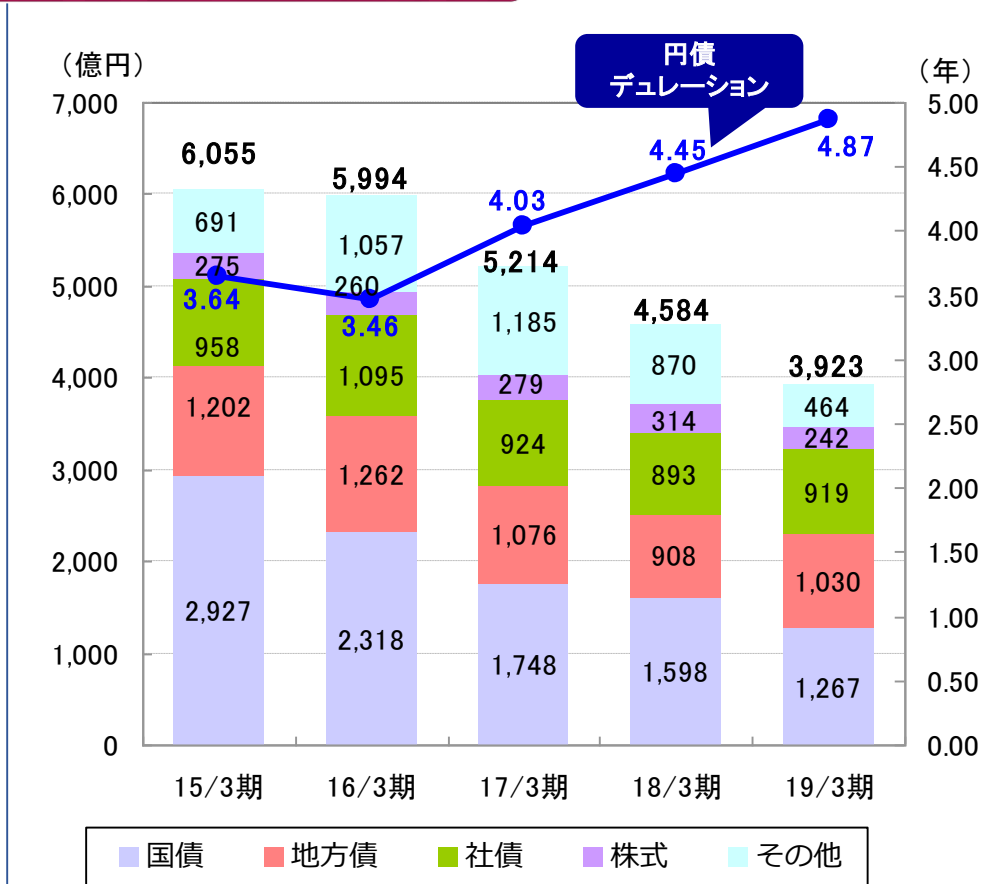
## 預貸金利回り差（国内）

## 地銀平均との預貸金利回り差



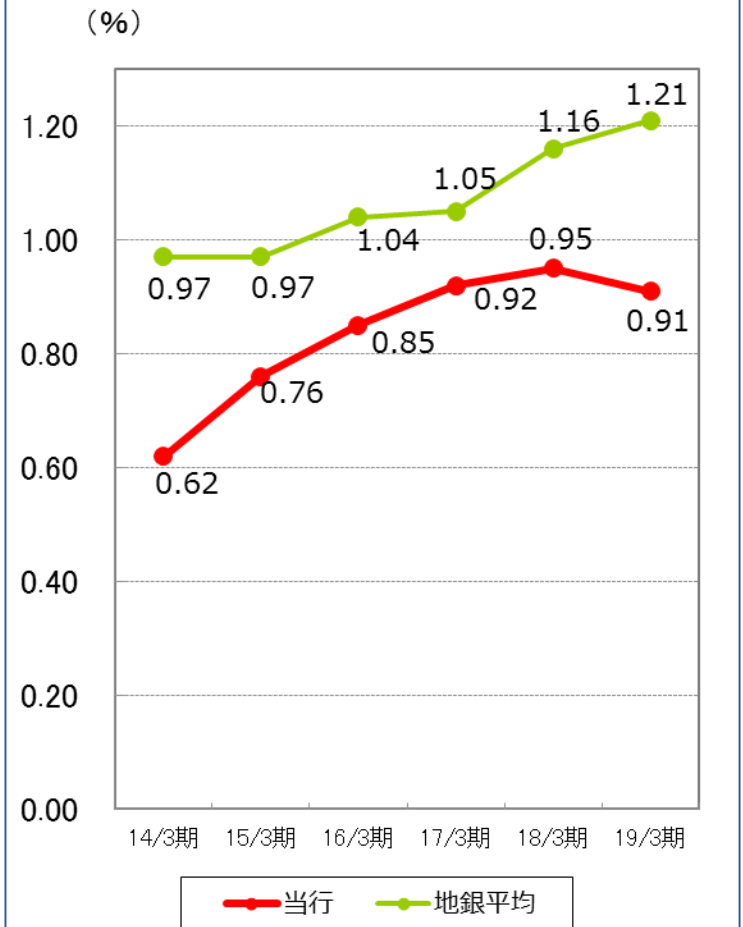
# 有価証券（未残）

## 未残・円債デュレーション



※デュレーションは変動利付国債を含んだ数値を開示しております。

## 利回り

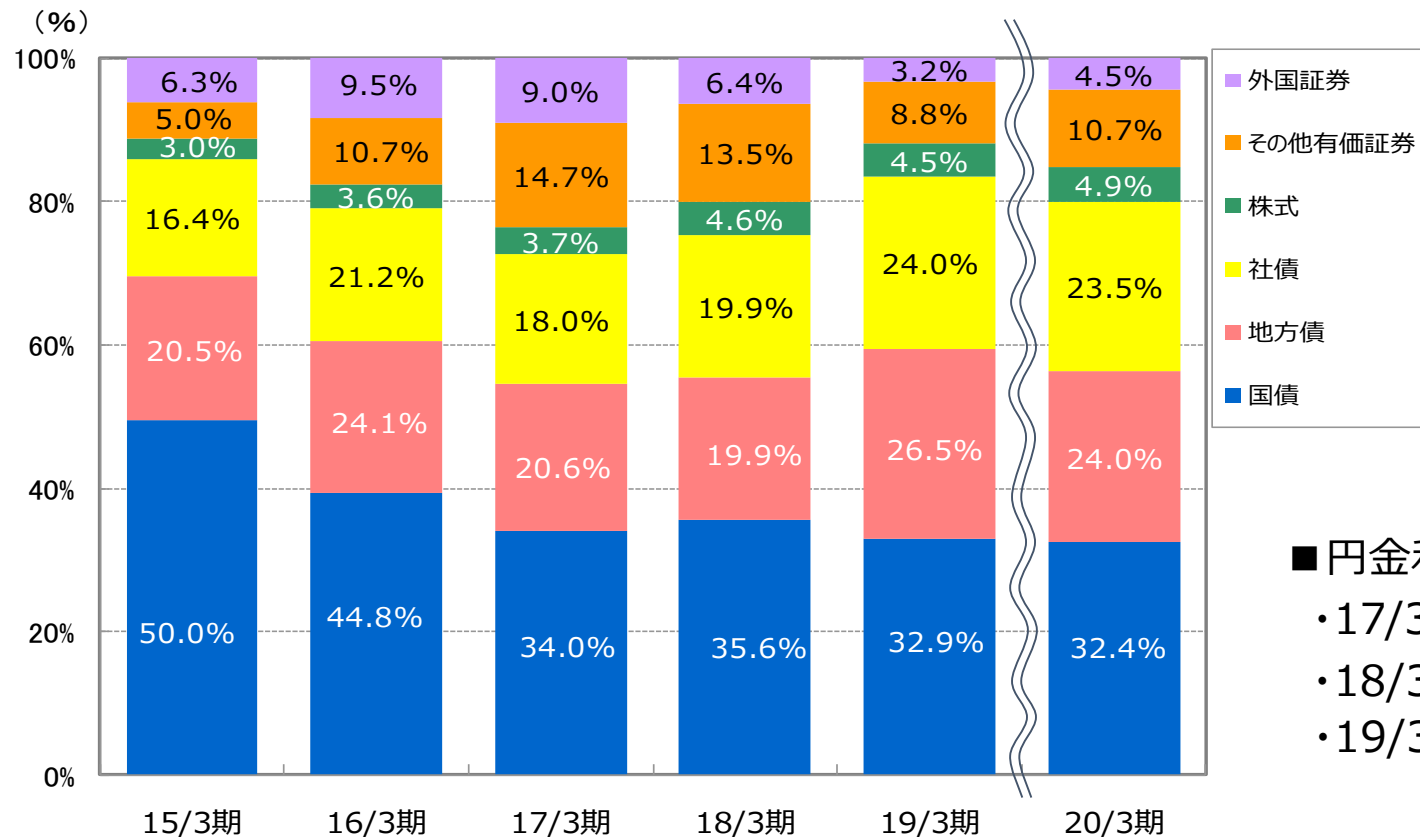


※19/3 地銀平均は18/9地銀平均の数値を使用。

# 有価証券アロケーション

## 円金利資産（国債等）からのリバランスの継続

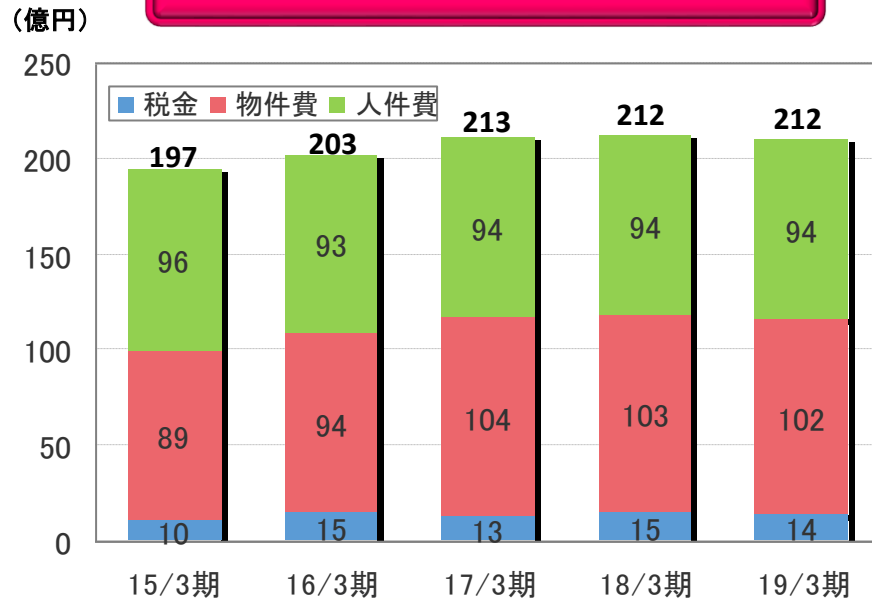
### 有価証券構成比率（期末取得原価）



# 経費の推移

物件費の減少（前期比▲6百万円）により経費は微減  
 コアOHRはコア業務粗利益の増加もあり▲0.4ptの72.0%

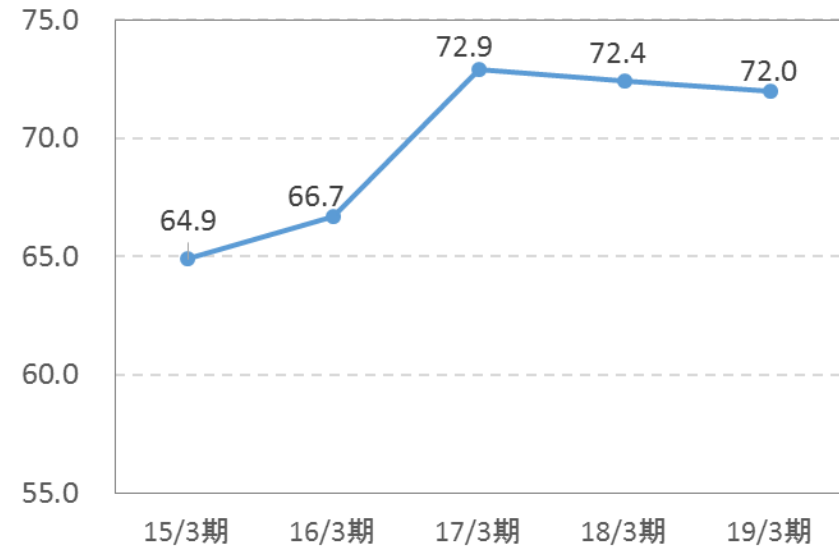
経費の推移



人件費は横ばい

減価償却費 減少  
 事務委託費 減少  
 横ばい

コアOHRの推移



消費税増加等  
 横ばい

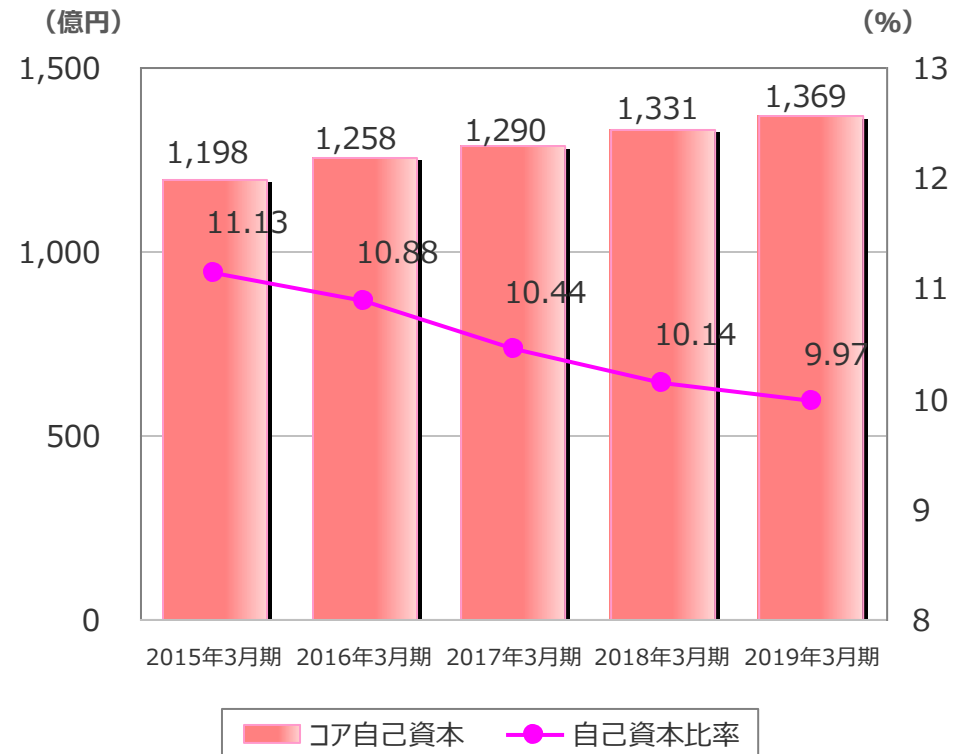
# 自己資本比率

**自己資本比率（国内基準）は、9.97%**  
**貸出金の増加により自己資本比率は低下したものの、健全性は確保**

	単位：百万円、%		
	2018/3期	2019/3期	前期比
【連結】			
自己資本比率	10.80%	10.59%	-0.21%
自己資本の額	144,509	148,401	3,892
コア資本に係る基礎項目	145,697	149,884	4,187
コア資本に係る調整項目	1,187	1,483	296
リスクアセット	1,337,968	1,400,164	62,196
【単体】			
自己資本比率	10.14%	9.97%	-0.17%
自己資本の額	133,193	136,985	3,792
コア資本に係る基礎項目	134,293	138,341	4,048
コア資本に係る調整項目	1,100	1,356	256
リスクアセット	1,312,973	1,373,061	60,088

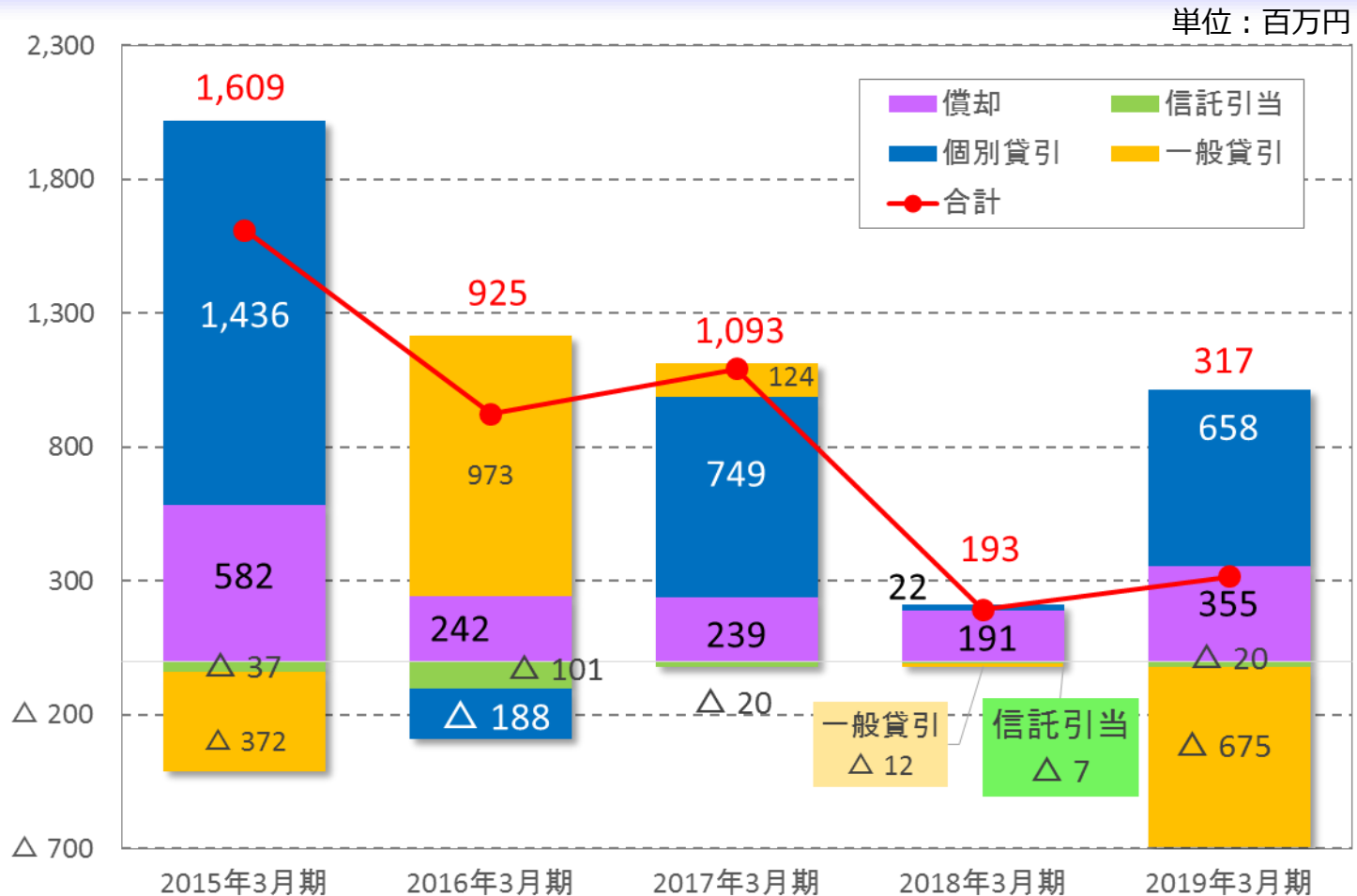
好調な沖縄県経済を反映し、中小企業向け貸出、個人向け貸出の増加等によりリスクアセットが増加し、自己資本比率は低下しているものの、健全性を維持している。国内基準行の地銀平均の9.73%（2018/9期平均）を上まわっている

## 自己資本および比率の推移（単体）



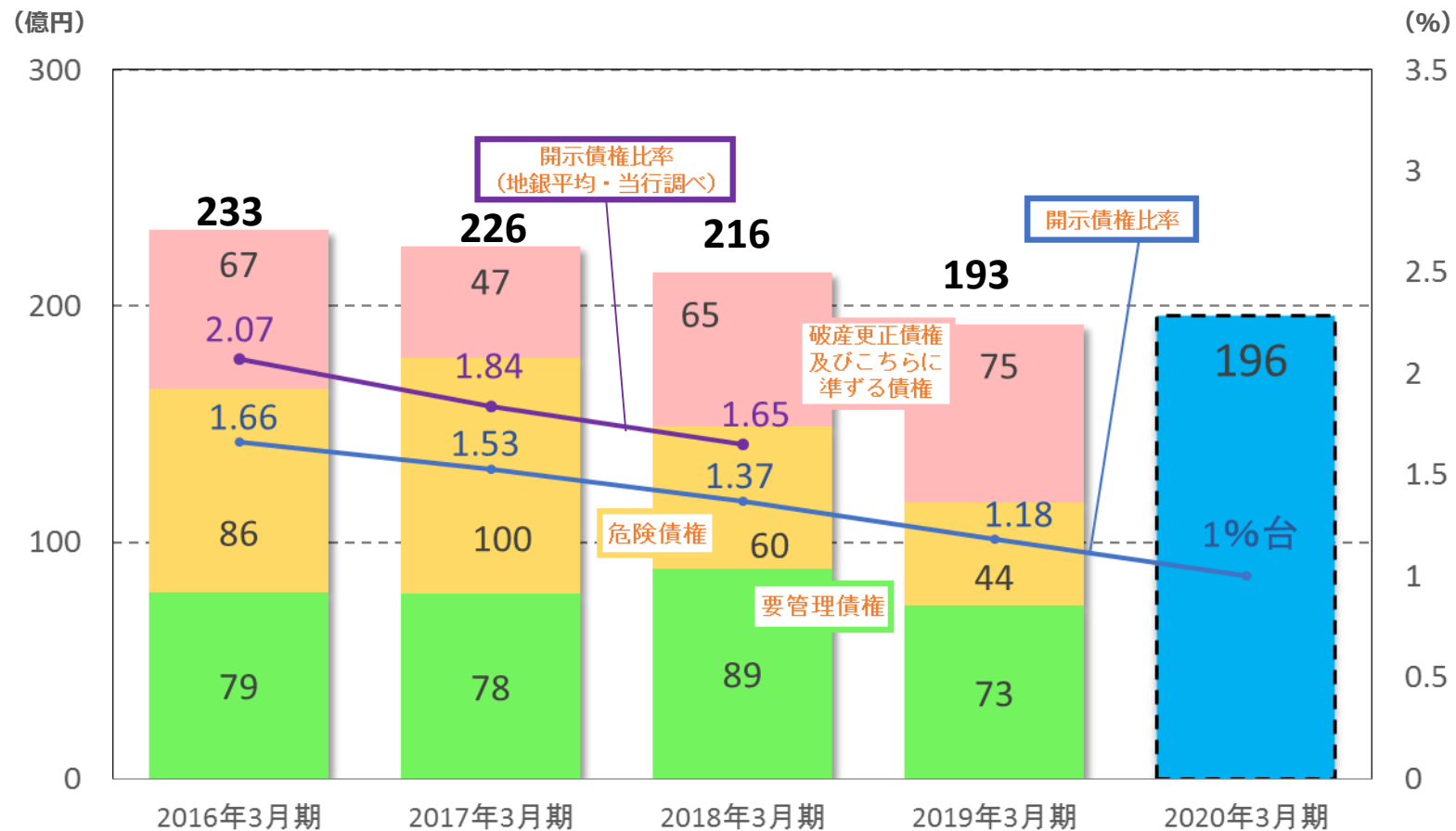
## 与信費用の推移

与信費用全体では、前年度比123百万円増加の317百万円



# 金融再生法に基づく開示債権

開示債権 193億円 (1.18%)  
地銀平均1.65%を下回っており、低い水準で推移



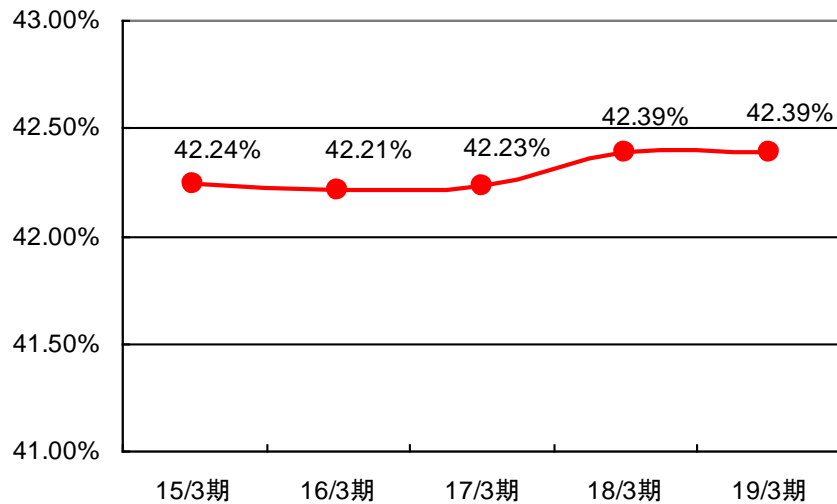
# 沖縄県内シェア（3行シェア）

## 貸出金・預金シェアともに高水準を維持

貸出金シェア 42.39%（前期比 ±0.00ポイント）

預金シェア 42.14%（前期比 ▲0.25ポイント）

### 貸出金（平残）



### 預金（平残）

